



大丸有CSRカタログ



エコのまど



丸の内地球環境倶楽部ワーキング「環境コミュニケーション」2011年度報告書



エコツェリア／丸の内地球環境倶楽部／丸の内地球環境新聞



目次

01	旭化成ホームズ株式会社
02	旭硝子株式会社
03	大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会
04	株式会社大林組
05	鹿島建設株式会社
06	小岩井農牧株式会社
07	株式会社サンケイビル
08	清水建設株式会社
09	大成建設株式会社
10	NPO法人 大丸有エリアマネジメント協会
11	株式会社竹中工務店
12	株式会社ティップネス
13	株式会社東京国際フォーラム
14	東テク株式会社
15	有限責任監査法人トーマツ
16	戸田建設株式会社
17	株式会社日本政策投資銀行
18	バイエル マテリアルサイエンス株式会社
19	株式会社日比谷花壇
20	丸の内熱供給株式会社
21	三菱地所株式会社
22	株式会社三菱地所設計
23	株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
24	ヨシモトポール株式会社
25	エコッツェリア協会
26	株式会社イトーキ
27	三菱電機株式会社
28	CSR 活動一覧表
32	3.11 後の「環境コミュニケーション」を考える。 — 2011年度講演内容サマリー
34	ワークシート
35	参考文献

はじめに

丸の内地球環境倶楽部ワーキンググループ(WG)「環境コミュニケーション」は、大手町・丸の内・有楽町地区(=大丸有エリア)が目指す「持続可能(サステイナブル)な環境共生型都市」に共感する企業・団体が集い、エコッツェリアを舞台に、これからの環境・CSR活動のあり方についてともに学び、考える活動です。

本WGは2011年度において、企業の先進事例を学ぶだけでなく、東日本大震災の復興活動、地域・NPOとの連携や、新しい企業価値に関するセミナーや、学びを自らのアクションにつなげるワークショップを行いました。各企業・団体の環境・CSR活動を、本WGを通じて学んだ実践的環境コミュニケーションの成果を踏まえて社会に伝えていく取り組みとして、大丸有CSRカタログ「エコのまど」2011年度版を発行しました。

環境・CSR活動を、部署内に、経営者層に、ビジネス相手に、顧客に、地域社会に、認知・理解・共感してもらうためには、環境・CSR報告書やウェブサイトを用意するだけでなく、手元にある素材を「コミュニケーション」するツールとして、担当者が自らがつくってみる。それが、「エコのまど」の狙いです。

あなたが心動かされたページは、どれですか？
「こんな活動してるんだ」と発見があったページは、どれですか？
「一緒に活動してみたい」と感じたページは、どれですか？

そう感じたら「エコのまど」の先まで、もう一歩、進んでみてください。

サステイナブルな社会のヒントが、そこにきっとあるはず。

2012年3月
エコッツェリア協会
丸の内地球環境倶楽部ワーキンググループ
「環境コミュニケーション」事務局

参加企業の成果

ワーキング「環境コミュニケーション」の一年間の成果を、ご覧下さい。



これまでも、これからも、 ロングライフ住宅

「参加企業の成果」の読み方

一番上の大きなポスターは、参加企業の CSR 活動全般について表すポスターとして制作しました。下の 2 枚は、CSR 活動のうち、今年度の重点テーマや、メインではないけれど重要な活動についてを表すポスターを制作しました。また、それぞれのポスターに、CSR 活動の背景や考え方をまとめた文章も併記しました。



60 年先まで、快適に住み続けられる住まいづくり。長寿的な住まいを実現することで、地球環境への負荷を抑えます。「熱環境向上技術」と「自然の恵みを活かす知恵」を融合。住む人にも、環境にもやさしい住まいをつくれます。

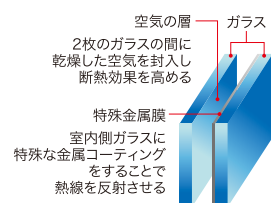
上)「そらのま+」は夏の暑い日差しを遮断しながら通風を確保、外部からの視線も防ぎます。都市型住宅でも窓を開け放ち、自然と調和した暮らしが可能です。自然と調和して暮らす一例です。
下)「Eco ゾウさん Club」は家庭の電気・ガス・水道の使用状況を楽しみながら記録し、環境について考えていきます。参加していただくご家庭が増えれば、Co2 削減量が大きくなり社会的な価値も上がります。

旭化成ホームズ株式会社

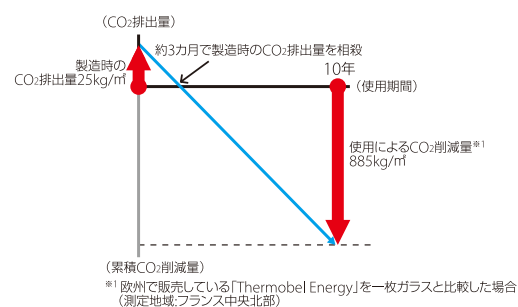


地球温暖化問題に貢献する環境商品

省エネガラスの構造



省エネガラスの使用によるCO₂ 排出量の削減効果



AGC グループは、ガラス・電子・化学品事業などを展開するグローバル企業として、地球温暖化問題に貢献する製品を世界各地に提供しています。「2020 年のありたい姿」として「持続可能な社会に貢献している企業」を目標とし、環境関連製品の売上高比率を30% 以上にすることを目指しています。

建築用省エネガラスは、複数のガラスの間に乾燥空気等の層をつくり、その一部に Low-E ガラス（低放射ガラス）を使用しています。通常のガラスよりも断熱性・遮熱性に優れ、冷暖房効果を高めます。

旭硝子株式会社

ご担当：荒木直子、高橋広夫



時代のニーズ・最新技術を踏まえ、まちづくりの方向性を検討 (大丸有地区まちづくりガイドライン)



大丸有協議会は、当地区の地権者が集まり、世界有数の国際的なビジネスセンター構築に向け再開発を推進しています。東京都・千代田区・JR 東日本とともに、地元地権者がまちづくりの方向性を共有する「まちづくりガイドライン」を公民協働で策定しながら、時代にあった進化を続け、サステナブルコミュニティー実現を目指しています。

まちの要素は多種多様 大丸有の今を切り取る「ON!」



大丸有地区では、都市基盤や公的空間の整備、環境、防災・防犯、それらを支えるエリアマネジメントなど、まちの魅力向上に向け、その時点の最新技術を取り入れながら時代に即したまちづくりの実践が行われています。また、変化しながら進化するまちの要素を定期的に発信する街づくり情報誌「ON!」を、地区内で配布。公民協調の取組が評価され、大丸有地区内のその他まちづくり2団体とともに、日本都市計画学会 石川賞を受賞しました。

大手町・丸の内・有楽町地区
再開発計画推進協議会

ご担当：大丸有地区再開発計画推進協議会 環境エリアマネジメント委員会



見上げれば、みんな笑顔



おかえりなさい。品川の森へ



復興への道をともに歩く

大林組は、持続可能な社会の実現に貢献し、社会とともに発展を続ける企業をめざしています。地球というかけがえない社会の一員として、人々に、そして地球環境そのものに笑顔をお届けすること。それが私たちの願いです。

すべての人々が、安心して笑顔で暮らせる社会をつくるために。建設業を通じて、社会の基盤づくりを担う私たちの挑戦は、これからも続きます。

上) 私たちは、地球環境に配慮した都市開発を進めています。「品川セントラルガーデン」では、都市に造られた緑地に息づく多様な生物を観察し、生態系保全やヒートアイランド対策の知見を蓄積。お客様への提案に活かしています。

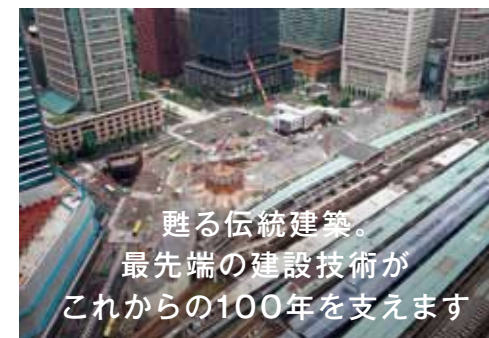
下) 東日本大震災発生直後から、被災地への緊急支援など復旧・復興のためにさまざまな取り組みを行ってきました。災害に強い安全・安心な社会をつくるために、私たちは、一歩ずつ復興への歩を進めてまいります。

株式会社大林組

ご担当：末積仁、山本麻子



東京駅。丸の内ルネサンス2012



甦る伝統建築。
最先端の建設技術が
これからの100年を支えます



復旧から復興へ。
確かな一歩一歩を

文化遺産を次世代に継承するのも私たちの大切な仕事です。現在、東京駅で丸の内駅舎の保存・復原工事を進めています。戦災で焼失し、終戦直後に修復された建物の主要な部分を極力保存して活用。屋根やドームなどを創建当時の姿に甦らせます。併せて行っているのが、最先端の建設技術を用いた耐震性を高める免震構造化、地下の躯体を新設して建物機能の拡充を図る工事です。伝統建築をこれからの100年へ。鹿島の技術が支えます。

安全で安心できる生活環境を構築し、次世代へ受け渡していくこと。昔も今も変わらない鹿島の願いです。自然との調和と共生を図りながら、災害多発国の日本では、大地震、台風など自然の威力と対峙していくことも求められます。自然災害で受けた被害を速やかに復旧し、復興に向けて確実な歩み続けるために。生活基盤を確かに構築し、明るい未来を約束するために。今日も建設を続ける鹿島です。

鹿島建設株式会社

ご担当：広報室CSRグループ 金子透



不毛の原野は
120年の時を越えて緑豊かな大地へ



未来を担う子供たちに緑豊かな環境の大切さを伝え続けていきます



環境保全・持続型・循環型の
農場運営に取り組んでいます

小岩井農場は明治24年の開設以来不毛の原野を開拓し、森林創出と酪農など農林畜産業の営みの中で、環境との共生を目指してきました。荒野から年ごとに緑深まるパノラマを詩人宮沢賢治は、「新鮮な奇跡」と讃えました。いまでも小岩井農場は、土づくり、草づくり、牛づくり、堆肥づくりをはじめとする持続可能な循環型による環境保全の事業運営を身をもって体現しています。

小岩井農場の2,000haの森林には、120年にわたる植林により清らかな水や多様な生態系を育む豊かな自然環境が形成されています。次世代を担う子どもたちが、この自然の恵みに気づき、環境共生の大切さを学ぶために四季折々の自然体験プログラムを実施しています。

また、環境保全・持続型・循環型を基軸とした事業運営の中で、家畜糞尿を活用した畜産バイオマス発電等の資源を循環させて持続可能な事業活動を実践しています。

小岩井農牧株式会社

ご担当：大西智子



安心・安全、
人と地球に優しいビル



壊さず活かす



街をCoolに

当社は、「もっとひとりひとりのなかへ。」というコーポレートコピーのもと、都市生活者ひとりひとりが幸せになる場やサービスを提供しています。人にも地球にも優しいオフィスビル開発や、様々な環境施策で地球との調和を図るマンション開発など、地球環境に配慮した開発を進めています。ひとりひとりのなかへ、深く入り、ひとりひとりの思いをカタチにしていきます。

上) 一棟丸ごとリノベーション。
開発理念「環境との共生」を実現するリノベーション事業を推進しています。「スマートス幕張本郷」は、既存建物を壊すのではなく再生し、環境に配慮したマンションとしてお客様に評価を頂いています。

下) 地域でのコミュニケーションも大切にし、打ち水などのエリアイベントにも参加。
もっとひとりひとりのなかへ。
サンケイビルは、ひとりひとりに幸せを提案するデベロッパーです。

株式会社サンケイビル

ご担当：CSR チーム



子どもたちに
誇れるしごとを。



地球をまもるしごと



未来をつくるしごと

当社は、創業(1804年)以来の基本理念である「論語と算盤」の考え方にに基づき、事業と一体となったCSR活動を推進しています。コーポレートメッセージ「子どもたちに誇れるしごとを。」は、誠実さと強い責任感を持ちながら、社会人として恥じない、そして、専門家として誇れるような仕事をし、次の時代に財産となるものを残していかなければならないという私たちの決意です。

(仮称)丸の内1-4計画の現場では、徹底した4R活動とサーマルリサイクル(廃棄物を焼却して得られるエネルギーを回収すること)で完全ゼロエミッションにチャレンジしました。例えば、安全靴も分解して鉄・ゴム・プラスチック等に分類し、リサイクル。また、建設期間中はドライミスト、地域清掃活動等で地球温暖化緩和を図るとともに、自然エネルギーの利用、地域への生態系配慮等に取り組むことで、丸の内周辺環境の維持・向上に努めました。

清水建設株式会社

ご担当：福永恭子、中村孝之



逆境に負けない力を今こそ。



節電の夏。ゴーヤの夏。



一人一人の想いを
くみ取る事から始まる。

東日本大震災を受け、人々の安全と安心を守ることが、私たちにとって重要な社会的使命であると改めて認識しました。これからも私たちは、「人がいきいきとする環境を創造する」というグループ理念のもと、そこに暮らす人々の豊かな生活を支え続けるために、被災地の復活に貢献することが建設会社の使命としてとらえ、私たちができることを誠実に取り組んでまいります。

上) 全国の作業所で、ゴーヤを使った緑のカーテンを設置する「ゴーヤde えこ」プロジェクトを行いました。節電対策になるとともに、作業員の方々の交流にも一役買っています。
下) 石巻市における「まちなかスマイルプロジェクト」の一環として、被災者のニーズの聞き取り調査に協力しました。

大成建設株式会社

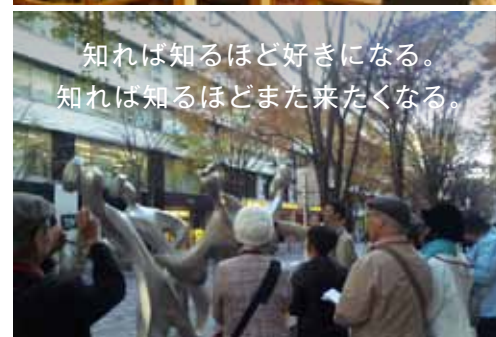
ご担当：山田康生



みんなの“エコ”を乗せて、
今日も丸の内シャトルは走ります！



丸の内では、
学ぶ、楽しむ、つながる。



知れば知るほど好きになる。
知れば知るほどまた来たくなる。

大丸有エリアマネジメント協会は、大丸有エリアを中心に、街をより一層活性化させ人々の多様な参加・交流の機会を創っていく事を目的に、環境・交流・活性化の3本柱による活動を行っています。なかでも、環境にやさしいエコな乗り物“丸の内シャトル(無料巡回バス)”の運行支援を通して、街と人、そして環境を結ぶことで、身近なエコ活動普及に努めています。現在丸の内シャトルは1日約1,800人の方にご利用頂き、地域の足として定着しています。

およそ月に一度開催する『リガーレセミナー』。毎回「フラワーアレンジメント」や「日本酒」など多彩な内容を取り上げ、地域の人々や丸の内に集う人々のオフタイムの充実を図るとともに、楽しく交流する機会を設けています。また、大丸有エリアに精通したボランティアガイドが街を案内する『丸の内ウォークガイド』では、歴史・建築・アート of 3つのテーマごとに街を探索する人気ツアーを開催することで、より街と人のつながりを深める取り組みを行っています。

NPO法人 大丸有エリアマネジメント協会

ご担当：井上幸子、竹井美香子



「東日本大震災を受けて、今、私たちが
提案・提言できること」



人の命を守る新しい考え方の
新しい防潮堤の提案



鉄道沿線に自転車網を整備し
災害時にも機能するインフラを提案

昨年5月、全従業員を対象に“東日本大震災を受けて、今、私たちが提案・提言できること”の募集を行い、計166件が出されました。そして7月、「環境シンポジウム2011」を開催し、お客様を含む社外有識者の方々約50名を招き、東京を主会場とし、全国の支店と海外をTV会議システムで結んで行いました。シンポジウムでは15件の際立った視点の提案・提言を発表し、5件が優秀賞に選ばれました。優秀賞のイメージ図を一部ご覧ください。

シンポジウムは、東日本大震災復興構想会議検討部会委員を務められている京都造形芸術大学教授の竹村真一氏が基調講演を行い、社外パネラーとして小泉雅生氏(首都大学東京教授)、伊香賀俊治氏(慶応義塾大学教授)、三浦展氏(カルチャースタディーズ研究所主宰)に参加頂き内容を深める充実した討議となりました。今回の提案・提言に対する社外有識者の方々の貴重なご意見を踏まえ、当社の取り組みとして役立てていきます。

株式会社 竹中工務店

ご担当：川原田稔、石井康友



ココロもエコロジーな
ティップネスメンバー急増中！



復興支援。
体脂肪がひまわりに。



猛暑を乗り切ったこのカラダ！

お客様にクラブライフを楽しんでいただきながら節エネルギーに取り組んでいます。2011 年はインバーターシステムを取り入れ、約 10% の電力量削減が実現！エコキャップ活動も実施し、お客様と一緒にエコや支援活動に取り組んでいます。

フィットネスライフを楽しんでいる方は、カラダもココロもスッキリです！

震災の復興支援と節エネルギーをお客様と一緒に活動した 2011 年。脂肪 100g100 円で買い取りますイベントを実施し、その金額の一部で福島県の園芸店よりひまわりを購入しました。改涼 BODY はエコの証です。

株式会社ティップネス

ご担当：山下朋恵



ここから、はじまる「〇〇！」



東京国際フォーラムは、1997 年 1 月、国内最大のアート & コンベンションセンターとしてオープン以来、地域の顔、東京の顔そして日本の顔として、数多くの「集い」や「体験」、「喜び」や「発見」の場を提供し、「感動創造」企業として貢献して参りました。

皆さまに愛されて今、ここに 15 周年を迎えることができました。

<ここから、はじまる「〇〇！」>

わたしたちは今、より大きな感動創造をめざして新たなスタートを切ります！



ここから、はじまる

株式会社 東京国際フォーラム

ご担当：施設管理 G 矢嶋浩一



ウイルス
除去

カビ抑制

ClO₂

消臭

除菌

室内環境改善に、
提案があります



自社ビルで節電 18.9%



自由設計で、スマートに
省エネ&省コスト

浄水に利用され、除菌・消臭等に効果のある二酸化塩素ガス。これまで難しかった濃度管理をクリアし、人が生活する空間への利用に成功しました。

この技術を空調設備に活用して生まれたクレベリン発生機「リスパス」は、「安全な空気質」・「空間の衛生管理」を提案しています。オフィスや人が集まるビル・施設・工場で、健康的な環境づくり、BCP対策のアイテムとして力を発揮します。

お客様のオフィスやビルの省エネを、創意工夫で支援しています。技術の目利き、全体最適を目指したシステム化と計装制御、ESCOやESPなどを通じて、お客様の自由設計を反映した環境提案を行っています。提案力の「見える化」として、東テクトASセンターの空調・照明の節電・省エネシステム（室外機の制御、エコシルフィ設置、直管型LED照明等）を導入し、本格稼働しています。

東テクト株式会社

ご担当：権田和裕

さあ、みんなで植えよう。



経済や社会のしくみを考えよう。



声援をこめて被災地に届けます。



日比谷公園の花壇の植え替えボランティアは今年で6年目を迎え、これまでに約500人が参加しました。多くの人々が訪れるオフィス街の花壇が憩いの場となるよう、楽しみながら活動を続けていきます。

トーマツは、自然環境の保全や地域社会への貢献を目指して、「トーマツの森」での森林保全活動をはじめとするさまざまな取り組みを展開しています。

上) トーマツでは、経営シミュレーションプログラムを通じて経済教育を支援しています。講師を務めるトーマツの専門家は、グループで「経営」に取り組む高校生と楽しく充実した時間を共有しています。

下) リースアップしたパソコンを買い取り、東日本大震災の被災地で復興を支援しているNPO法人に寄付しました。寄付に先立ち、障がいのあるスタッフが、専属指導員のもと、バッテリー状況のチェックなどを行いました。

有限責任監査法人トーマツ

ご担当：CSR推進室 天野晴子



人がつくる。人でつくる。



「ECO・リーダープロジェクト」
エコ活動・エコ意識の向上のために。



「オール戸田」で
強い意志を持って復興を支援

ここで過ごす人々の姿を、
ここからはじまるしあわせをイメージしながら。
アイデアでつくろう。情熱でつくろう。
さまざまな人の想いをつないでつくろう。
アタマとココロを使って
人間にしかできないものづくりを目指して。
人がつくる。人でつくる。
それが戸田建設のやりかたです。

建設業は、人々が生活していくために必要な社会資本を整備し、社会的財産を創造していく、社会性、公共性が高い産業です。私たちは、事業に対する誇りとともに、安心、安全で、快適な社会の構築に貢献するという使命感をもって活動してまいります。当社の事業活動の主体は「人」です。社員一人ひとりがプロセス重視の姿勢を貫き、想いのこもった事業活動を着実に推進していくことで、社会的責任を果たしていきます。

戸田建設株式会社

ご担当：CSR推進室 加藤文夫 環境事業推進室 樋口正一郎



金融サービスを通じて、
日本の豊かな未来づくりに貢献します



サステナブルな社会の実現へ
向けて「DBJ 環境格付」



環境・社会に配慮ある不動産
“Green Building”が
増えています

DBJ は、地球環境問題に向き合い、長期性・中立性・パブリックマインドの視点を活かした投融資を推進しています。これまでも、1960 年代の公害対策を皮切りに、40 年以上にわたり環境対策事業に対して投融資を実施。環境金融の一層の普及・向上に取り組んでいます。世界で初の融資メニュー「DBJ 環境格付」融資に加え、2011 年度には「DBJ Green Building 認証制度」がスタートしました。

「DBJ 環境格付」は、DBJ が独自に開発した格付システムによる世界で初めての融資メニューです。これまでに累計で 4,000 億円を超える融資を実施しています。また、2011 年度よりあらたに、環境・社会への配慮がなされた“Green Building”を所有・運営するお客様の取り組みを支援するため、「DBJ Green Building 認証制度」を創設しました。これまでに 40 件を超す不動産を認証しています。

株式会社 日本政策投資銀行

ご担当：青山志津、松口美穂



忘れない
あの日、小学校の実験室で見つけた
「わくわく実験びっくり箱」



エコ、生産中



やさしい先端素材を使うと
もっとやさしい建物になる

バイエルは日本で100年に渡って事業を展開しています。ミッションステートメント「よりよい暮らしのためのサイエンス」を掲げ、製品とサービスは人々のクオリティー・オブ・ライフ (QOL) の向上に貢献することを目標としています。体験・質問型理科実験教室「わくわく実験びっくり箱」は次世代を担う子供たちの科学的好奇心を高め、科学の理解力向上を図ることを目的として毎年小学校を訪問して実施しています。

建物から排出される温室効果ガスは、世界の温室効果ガス排出量の約1/3を占めています。バイエルは、気候保全に貢献できるようにエネルギー効率の優れた方法で建物を建築し、利用できるようにソリューションを提供する「エコ・コマーシャルビル」プログラムをグローバルに展開しています。また、生産施設のエネルギー効率向上や気候変動の影響への対策にも取り組んでいます。

バイエル マテリアルサイエンス株式会社

ご担当：梅澤千絵



(花+みどり)²×愛=日比谷花壇



衣食住+緑



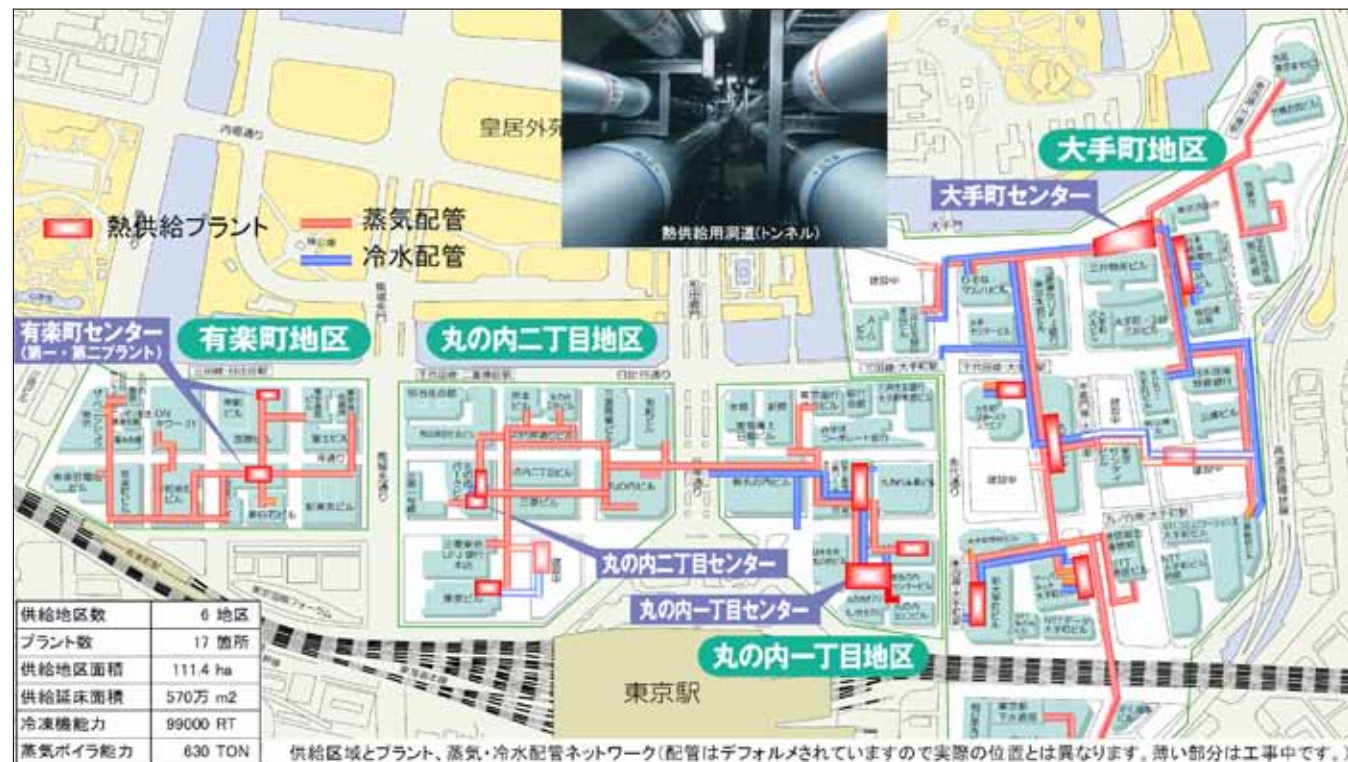
作りたいのは、
ストーリーです

3.11 東日本大震災。世界を震撼させた災害に際し、私たちは首都圏の人々にひまわりの種を配布、育った苗を被災地に届ける活動を多くの方々とともに行いました。夏、ビタミンカラーのひまわりが被災地で元気に咲きました。活動を通じて育まれた、いのちのリレーと人々の交流は新しいコミュニケーションを生み出しています。

私たちは、生きていくために必要な「衣・食・住」に加え、そこに人間らしさや自分らしさを表現するための「緑」を加えたいと考えています。
例えば園庭、私たちは芝生の感触をはだして感じてもらい、より多くの遊びを発見してもらいたいと思います。
例えば公園、工事で使う機械に触れていただき、リニューアルする公園に興味を持っていただく機会を増やしています。
私たちは花とみどりでストーリーをつくっていきます。

株式会社日比谷花壇

ご担当：越智正夫



都市の環境を地下から支えます



見て、触って、知ることもエコ



高効率を地域全体に

大手町、丸の内、有楽町、内幸町、青山の地下に熱供給配管とトンネルが血管のよう張り巡らされているのをご存じでしょうか。私たちは冷水、蒸気、温水を作るプラントを建設し、ネットワーク化された配管から各所に熱を供給し都市の環境を地下から支えております。安定した熱供給と地域低炭素化推進のため、高効率なプラントの新設や改修をすすめ、運用面でも効率改善に常に取り組み、環境負荷低減に努めています。

最新の丸の内二丁目センターでは、低負荷時に効率が向上するインバータ冷凍機による大幅な省エネルギーや氷蓄熱による電力負荷平準化を実現するとともに、隣接地区と地域配管をつなげネットワーク化し、熱供給信頼性を高めながら、負荷平準化、高効率機器共有化による全体効率向上など、エネルギーの面的利用を推進しています。この結果、東京都環境確保条例における優良特定地球温暖化対策事業所の「準トップレベル事業所」に認定されました。

 丸の内熱供給株式会社

ご担当：佐藤文秋、矢崎淳史



レストランだけでなく
文化・芸術の薫りがする街に深化しています



安心とクオリティーを
オールランドに見守ります



遠い場所も「空と土」で
つながっている

三菱地所は、基本使命である「まちづくりを通して社会に貢献する」ことをCSRと考え、「人を、想う。街を、想う。」のコーポレートスローガンのもと、すべてのステークホルダーの皆様との絆を深めながら、住み・働き・憩う人々に満足いただける、地球環境にも配慮した魅力あふれるまちづくりを「拡がり」と「深まり」を新たなテーマとして進めています。

新体制、新ブランド“The Parkhouse”のもと、「暮らしに、いつも新しいよろこびを。」お届けするために、価値ある住まいづくりを展開しています。また、都市農山村交流「空と土プロジェクト」では、社員だけでなく、丸の内エリアの事業者やお客様に参加していただきながら、山梨県産の木材や食材を三菱地所グループの事業活動に結びつけるなど、地域活性化の一端を担っています。

三菱地所株式会社

ご担当：齋藤由佳



豊かな経験と高い技術力で
環境への取り組みをサポートします



豊かな緑と彫刻が調和する
都市の憩い空間



語らいの場として親しまれる
一号館広場

私たちは、様々な環境共生技術を駆使したワークプレイスとランドスケープのご提案に取り組んでいます。
その一つが「一号館広場」です。保水性舗装やドライミスト、壁面緑化などの技術を用いながら、都市に緑豊かな憩いの空間を創出したこの一号館広場は、2011年の屋上・壁面・特殊緑化技術コンクールにて国土交通大臣賞を受賞しました。

私たちはこれからも、真に価値ある社会の実現に向けたデザインを提案し続けていきます。
三菱地所設計の環境共生への取り組み
建物の長寿命化技術の提案／既存建物の改修／建物の省エネルギー化技術の提案／地域エネルギーシステムの構築／風土、歴史、文化の継承と創造／人に優しい街づくり／地域の自然生態系の調査・保全／豊かな緑を創造する技術の提案／建設廃棄物の削減・再生利用の推進／再生資源の提案

株式会社三菱地所設計

ご担当：植田直樹



子どもたちの明日のために。
MUFG・ユネスコ協会
東日本大震災復興育英基金



希望を、明日へ。
「奨学金プログラム」



コミュニケーションを通じて、
ともに成長を。
「心豊かな成長プログラム」

三菱UFJフィナンシャル・グループの子会社である三菱東京UFJ銀行と公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、2011年4月に「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」を創設しました。「育英基金」では、震災で親を亡くした子どもたちに奨学金を給付するプログラムに加え、「花壇再生プログラム」「心豊かな成長プログラム」「ボランティア活動プログラム」を協働し、長期的な復興支援に取り組んでいます。

「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」における「奨学金プログラム」では、震災で親を亡くした子どもたちに、奨学金を給付していきます。また、「心豊かな成長プログラム」では、「劇団四季」のご協力を得て、観劇に奨学生を招待し、コミュニケーションを図りました。

株式会社

三菱UFJフィナンシャル・グループ

ご担当：CSR推進部 羽根田真



ピンチの時のこの一本！



ガス灯の時代から、
銀座の進化とともに



美しくにづくりで半世紀

ヨシモトポールの災害時帰宅支援照明柱は、照明として、また災害時には内部コンセントから携帯やラジオのための電力供給、帰宅誘導サインなど、様々な機能を備えた柱です。災害時など、ピンチの時にご活用ください。

上) 時代とともに、コンクリート、鋼管、鋳物等(素材の多様化)と技術の幅を広げてきました。銀座の新しいシンボルである照明柱は、ガラス、アルミ、鋼管、LEDのハイブリットでできています。新しい素材と向き合うことで、新しい技術が生まれます。

下) 会社を設立してから50年、コンクリート柱の時代から「美しくにづくりに良い品を」をスローガンに、デザイン照明柱、信号等様々な柱の製造を通して皆様の生活を支えています。

ヨシモトポール 株式会社

ご担当：田邊智哉子、鈴木幸男



「このまちで働けてよかった」
そう思えるまちに。

写真：望月小夜加・株式会社 Granma



新たな価値創造へ
立場を超えた交流が広がる、
深まる



大丸有に笑顔が増えてます
支えてくれる地域と
つながれたから

エコツツェリア協会は、環境共生型まちづくりを目指し、大丸有エリア内外の企業、団体、就業者等と連携し、「大丸有環境ビジョン」に基づくアクションや研究開発を進めています。企業、就業者、店舗関係者、自治体、来街者等が参加する「打ち水プロジェクト」は、環境貢献をテーマにまちに集い、さまざまなアイデアが交流する「新しいコミュニティ」づくりのきっかけとなっています。

丸の内朝大学。エコキッズ探検隊。3*3ラボ。地球大学。エコ結び。大丸有エリアは、企業や人が数多く集うまち。集まっている人たちが、立場を超えて交流することで、環境まちづくりへの新たな価値に向けたアイデアやアクションを生み出しています。さらに、大丸有を支えてくれる他の地域とも連携し、あるべき「都市の食」「環境経営」「環境まちづくりについても研究を進め、共進化するまちの姿を模索しています。

エコツツェリア協会

ご担当：平本真樹、伊藤早奈美



Chair for Future.

Spinaではたきながら、環境貢献と国際援助を。
カーボン・オフセットキャンペーン

Spinaは全機種で2010年12月より原材料調達から廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体のカーボン・オフセットを開始し、カーボンニュートラルな状態を実現しています。

カーボン・オフセットに開発途上で削減された排出権を利用することで、温室効果ガスの排出量を単に削減するだけでなく、実は国際援助にも貢献することができるのです。Spinaではたきながら、環境貢献と国際援助を。

CSRを身近なオフィス環境からはじめませんか。




三菱電機はエコチェンジで、
グローバル環境先進企業をめざします。

私たちは今、環境に配慮した豊かな社会を構築するために「エコチェンジ」を推進しています。

幅広い事業領域、優れた製品力、そして世界最先端の環境技術により、
低炭素社会・資源循環型社会の実現にチャレンジ。
これからも、「より良い明日」のために挑戦し続けます。



社会のエコチェンジ。	ビジネスのエコチェンジ。	くらしのエコチェンジ。
 鉄道、エネルギー、交通などさまざまな分野で省エネ化を推進。総合電機メーカーとして持続可能な社会の実現に貢献しています。	 ビル、オフィス、工場など、さまざまな省エネ対策機器・トータルソリューションを提供。低炭素社会の実現に貢献しています。	 太陽光発電、エコキュート、省エネの「見える化」機器、家電製品のリサイクルなどで、環境先進企業を目指していきます。

三菱電機株式会社

三菱電機は、グローバル環境先進企業へ。

CSR活動一覧表

凡例  = 大いに取り組んでいる  = 取り組んでいる

2012年3月、本ワークショップの参加企業を対象に、それぞれの自社のCSR活動の活動領域についてのアンケートを行い集計したデータをもとに作成した一覧表です。あくまで本ワーキング参加者の意見であり、各企業の公式発表ではありませんので、ご注意ください。

	旭化成ホームズ株式会社	旭硝子株式会社	株式会社大林組	鹿島建設株式会社	小岩井農牧株式会社			株式会社サンケイビル	清水建設株式会社	大成建設株式会社	株式会社竹中工務店	株式会社ティップネス	株式会社東京国際フォーラム	東テク株式会社	有限責任監査法人トーマツ
ガバナンス															
社内でのコンプライアンス意識の徹底															
経済															
気候変動に対する経済的リスクの評価															
環境															
リサイクル由来の原材料の使用推進															
エネルギー使用量削減の推進															
エネルギー効率の高いあるいは再生可能エネルギーに基づく製品およびサービスの提供															
水源の環境的調査															
取水量の削減の推進															
水の再利用の推進															
生物多様性の価値が高い地域での生物多様性向上に向けた活動															
生物多様性の観点からの、製品およびサービスの著しい影響の説明															
生物多様性への影響をマネジメントするための戦略、現在の措置および今後の計画															
事業によって影響を受ける地区内の生息地域に生息するIUCN（国際自然保護連合）のレッドリスト種（絶滅危惧種）および国の絶滅危惧種リストの数。絶滅危険性のレベルごとに分類															
直接および間接的な温室効果ガスの総排出量の把握															
温室効果ガス排出量削減のための率先的な取り組み															
NOx、SOx およびその他の著しい影響を及ぼす排気物質の削減への取り組み															
水質および放出先ごとの総排水量の削減															
廃棄物の削減															
環境問題およびCSRの社内啓蒙															
製品およびサービスの環境負荷低減への取り組み															
梱包材などの削減の取り組み															
原材料の輸送での環境負荷の低減															
社会															
経営管理職および従業員の、性別、年齢、マイノリティーグループなどの雇用推進															
従業員のカテゴリー別の、基本給与の男女比の平等化															
児童労働の防止への貢献															
先住民の権利保護への関与															
社会、環境問題解決を目的としたNPOとの協働															
CSR活動の、サプライチェーンの巻き込み															
地域の問題解決を目的とした地域との連携															

CSR活動一覧表

凡例  = 大いに取り組んでいる  = 取り組んでいる

	戸田建設株式会社	株式会社日本政策投資銀行	バイエル マテリアルサイエンス株式会社	株式会社日比谷花壇			丸の内熱供給株式会社	三菱地所株式会社	株式会社三菱地所設計	株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ	ヨシモトホール株式会社	エコツヴェリア協会	株式会社イトーキ	三菱電機株式会社
ガバナンス														
社内でのコンプライアンス意識の徹底														
経済														
気候変動に対する経済的リスクの評価														
環境														
リサイクル由来の原材料の使用推進														
エネルギー使用量削減の推進														
エネルギー効率の高いあるいは再生可能エネルギーに基づく製品およびサービスの提供														
水源の環境的調査														
取水量の削減の推進														
水の再利用の推進														
生物多様性の価値が高い地域での生物多様性向上に向けた活動														
生物多様性の観点からの、製品およびサービスの著しい影響の説明														
生物多様性への影響をマネジメントするための戦略、現在の措置および今後の計画														
事業によって影響を受ける地区内の生息地域に生息する IUCN（国際自然保護連合）のレッドリスト種（絶滅危惧種）および国の絶滅危惧種リストの数。絶滅危険性のレベルごとに分類														
直接および間接的な温室効果ガスの総排出量の把握														
温室効果ガス排出量削減のための率先的な取り組み														
NOx、SOx およびその他の著しい影響を及ぼす排気物質の削減への取り組み														
水質および放出先ごとの総排水量の削減														
廃棄物の削減														
環境問題および CSR の社内啓蒙														
製品およびサービスの環境負荷低減への取り組み														
梱包材などの削減の取り組み														
原材料の輸送での環境負荷の低減														
社会														
経営管理職および従業員の、性別、年齢、マイノリティーグループなどの雇用推進														
従業員のカテゴリー別の、基本給与の男女比の平等化														
児童労働の防止への貢献														
先住民の権利保護への関与														
社会、環境問題解決を目的とした NPO との協働														
CSR 活動の、サプライチェーンの巻き込み														
地域の問題解決を目的とした地域との連携														

3.11後の「環境コミュニケーション」を考える。

— 2011年度講演内容サマリー —

従来の CSR という枠組みを超えはじめた「環境コミュニケーション」。

今後を考えるうえで重要な事例となるプロジェクトを実施するリーダーをゲストに迎え、新時代の CSR について学びました。

企業ができること ————— ゲスト：北島昇氏（株式会社ガリバーインターナショナル）

事業ドメインでの貢献、スピードと実効性を確保する——

「ガリバータッグプロジェクト」

3.11を受け、ガリバーインターナショナルの経営陣は、3月14日には被災地に1000台の車輛を提供することを意思決定、北島氏の率いるマーケティングチームに、その具体化案をまとめるよう指示が降ります。行政を相手に調整を始めたものの、行政自体も被災者であることからなかなか話が進まないといった状況が続いたため、北島氏は自身のマーケティングポリシーである「わからないことは、生活者のいるところまでこちらが向いて、直接話をきこう」に立ち戻り、ソーシャルメディアのプラットフォームである、Blabo! とのプロジェクトを立ち上げます。経営陣には、スピードと実効性の重要性を説き、1000台のうち100台の支援先をこのプロジェクトで決定する権限を獲

得。こうして、クルマ100台の使い道をみんなで決める「ガリバータッグプロジェクト」は、車の使い方を募るアイデア編、車の使い道を募るニーズ編と、生活者から直接意見を募り、そのコミュニケーションのなかから、被災地支援の内容を決定していくことになりました。

「マーケティングもCSRも変わらない。私たちは単純に世の中との対話と理解しています。自分たちのコアバリューはなにか…簡単に言ってしまうと、車の売り買いしていることに尽きる。この事業ドメインでどう社会貢献できるか。社会と対話しながら、CSRをそういう形で昇華していきたいと考えています」

現場から考える、行動するCSR ————— ゲスト：高田佳岳氏（LIGHT UP NIPPON）

自分の得意なことを通しての貢献、徹底的に地元ニーズを聞き出す——

「LIGHT UP NIPPON」

都内の会社に勤務する高田氏は、震災後の自宅待機という生活のなかで、自分にできることはなにか自問自答する日々が続きます。ふと入ってきた東京湾花火大会中止の報をきっかけに「学生時代にダイビングのインストラクターを経験し、職場ではイベントの企画運営チームにいる。楽しさを紹介して人に喜んでもらうことこそ、自分の得意領域。東北で花火をあげよう」と一念発起。アポなしで入った初めての被災地で被害の大きさに茫然とするも、被災者である大槌町の公民館館長の「本気でやるなら、国や県がダメって言おうが、大槌町だけは花火をあげるよ」の一言で腹を決め、その後4か月間毎週末現地に通うことに。協力者を徐々に得て、実行委員会は被災地にまかせる

一方、東京では20人ほどの仲間と大急ぎで任意団体を立ち上げ、資金集めに奔走しました。最終的に集めた募金・協賛金はなんと62,291,686円。8月11日に11ヶ所で実施された花火大会では、33,500名の観客を楽しませました。

「資金を提供してくれたクライアントには、プロモーションとしてうまく使ってほしいとお願いしていましたが、企業によって非常に温度差がありました。CSRだからプロモーションalになってはいけないというのは違うかなと。ボランティアでは続きません。私たちの任意団体で個人が個人の得意なことをやるように、CSRでも企業は企業の得意なことをやればいいと思います」



NPOとのコラボレーション型CSR ————— ゲスト：高島友和氏（日本財団CANPANプロジェクト）

現地で本当に必要な支援をコーディネートするために、NPOと企業をつなぐ——

「日本財団CANPANプロジェクト」

日本財団CANPANプロジェクトは、NPOが情報発信するブログ・データベースと、その団体を応援したい人がネット上で寄付できる決済の仕組みを提供するWEBサービスとしてスタート、現在は社会課題を解決するプロジェクトのコーディネートまで行う、日本財団のプロジェクト。3.11では、地震発生から4時間後には寄付サイトをアップ、2週間で約9000件、金額にして1億円を集めました。それからの6か月間は、被災地をまわり、現地で必要とされている支援を調査・フィードバックし、復興支援を手伝う企業とNPOをつなぐプロジェクトコーディネートの活動を重点化。乃村工芸社には、石巻で活動する日本財団を通しカキ養殖作業のボランティア活動を紹介、また日比谷

アメニスには、南相馬のNPOが進めていたひまわりプロジェクトをつなぐなど企業の資源を被災地支援に活かすプロジェクトコーディネートを実施しました。

「被災地で実感したのは、被災するかどうかは紙一重だということ。解決するには、専門性の高いNPOとうまく付き合っていくことが重要ですが、なにか課題が起きてから関係性を作っていくのは難しい。日々の出会いでも飲み会でもいい。"普段づきあい"から、社会課題を解決する強い関係性が生まれるのではないか。"普段づきあい"の可能性をととても感じています」

CSRその次へ ————— ゲスト：水上武彦氏（株式会社クレアン）

資本主義をサステイナブルなシステムに変える

「共通価値の創造」CSV (Creating Shared Value) 研究

CSVとは、企業の事業を通じた社会課題解決を可能とする、「社会にとつての価値」と「企業にとつての価値」を両立させようとする新しい経営コンセプト。企業の社会的責任として、従来のようにネガティブインパクトを軽減することに重きをおいたCSRではなく、もう一歩踏み込んで、事業を通じて社会課題を解決する、ポジティブなインパクトを拡大させようという考え方です。2011年初めにマイケル・ポーターが「ハーバード・ビジネス・レビュー」で提議し、日本でも春頃から注目されるようになりました。GEの「エコマジンネーション」（環境問題対応ビジネスの積極展開）、住友化学の「オリセツトネット」（マラリアを媒介する蚊から身を守るための防虫剤を練り込まれた蚊帳の事業

化）、ユニリーバの途上国女性の自立支援（マイクロファイナンスと衛生教育の同時実施）など数多くのCSV事例を、CSRコンサルタントである水上氏が解説。

「資本主義をサステイナブルなシステムに変えていくため、CSVをどう進めるか。現状、社会貢献活動として、もしくはR&D（研究開発）活動の一部を社会課題解決型の事業開発にまわす形でスタートするのが進めやすいと思います。ただ最終的には実践する“人”の問題。CSVという考え方自体がひろがれば、その分やりやすくなる。それこそが私たちクレアンの役割で、納得度の高まる理論、考え方を今後も提示していきたいと考えています」

ワークシート

ワーキングで使用したワークシートを掲載します。ご活用ください。

ワークシート

会社名

① 今回の「ひとこと」で果たしたい目的

相手は…

② 相手は今、どう思っているか？

BEFORE

③ 相手は今後、どう思うか？

AFTER

※ 相手になりきって相手のコトバで書いてください

④ ③の状態を達成するための「ひとこと」を書いてください

SUCCESSの法則

6つの法則

1.単純明快である

(Simple)

2. 意外性がある

(Unexpected)

3.具体的である

(Concrete)

4.信頼性がある

(Credible)

5.感情に訴える

(Emotional)

6.物語性がある

(Story)

* 「アイデアのちから」(チップ・ハース、ダン・ハース)より引用(P35「参考文献」に情報あり)

参考文献

ワーキング参加者のみなさんが、環境コミュニケーション、CSR、CSVをより深く学ぶ上で、参考になりそうな書籍を9冊、選びました。どれも各分野で定番と言われている書籍です。ぜひ、読んでみてください。



アイデアのちから
チップ・ハース、ダン・ハース / 日経 BP 社 / 1,680 円(税込)
記憶に貼りつくアイデアとはどんなものか? 豊富な事例から、あらゆる分野に応用可能なアイデアの法則を導き出します。



プレゼンテーション ZEN
ガー・レイノルズ / ビアソン桐原 / 2,415 円(税込)
この本を読むと、プレゼンテーションが劇的に変わります。さらに、すべてのコミュニケーションが変わります。



アイデアのつくり方
ジェームス W.ヤング / 阪急コミュニケーションズ / 816 円(税込)
60 分で読めるけれど一生あなたを離さない本。1940 年初版にもかかわらず、未だに世界中のクリエイティブ層に読まれている歴史的名著です。



コトラーのマーケティング 3.0
フィリップ・コトラーほか / 朝日新聞出版 / 2,520 円(税込)
モノを売り込むだけの「製品中心」が「1.0」顧客満足をめざす「消費者志向」が「2.0」。「3.0」とは、ユーザー（消費者ではない）と共に課題を解決し、成長するマーケティング。つまり、CSR/CSV 論でもあります。



モチベーション 3.0
持続する「やる気!」をいかに引き出すか
ダニエル・ピンク / 講談社 / 1,890 円(税込)
生存(サバイバル)するモチベーションが「1.0」アメ(給料ボーナス)とムチ(減給左遷)による動機付けが「2.0」,「3.0」は自分の内面から湧き出る「やる気」に基づくモチベーションです。



ビジョナリー・カンパニー
——時代を超える生存の原則
ジェームズ・C・コリンズ、ジェリー・I・ポラス / 日経 BP 社 / 2,039 円(税込)
6 年にもわたる調査を行い、企業を組織する人間が企業内に活力を生み出すのは、カネでは計れない動機づけにあるというシンプルな「真理」を描き出しています。



シェア
＜共有＞からビジネスを生み出す新戦略
レイチェル・ボッツマン、ルー・ロジャース / 日本放送出版協会 / 1,995 円(税込)
ソーシャルメディア時代の新しい「シェアリング・エコノミー」が世界を変えつつあることが見えてきます。



Harvard Business Review
(ハーバード・ビジネス・レビュー) 2011年06月号
ダイヤモンド社 / 2,200 円(税込)
マイケル・ポーターによる CSV 論文「Creating Shared Value 経済的価値と社会的価値を同時実現する共通価値の戦略」の全文が読めます。世界の CSR/CSV 論の流れを把握できる。必読です。



ソーシャルデザイン
グリーンズ / 朝日出版社 / 987 円(税込)
自分ごとから社会／環境問題を捉え、クリエイティブな方法で問題解決を図りながら、自らの暮らしをも向上させていく考え方「ソーシャルデザイン」の入門書です。



ECOLOGY

CSV

COOPERATION

COMMUNITY

ACTION

SUSTAINABILITY

「エコのまど」丸の内地球環境倶楽部ワーキング「環境コミュニケーション」2011年度 報告書

発行日：2012年3月31日

発行：エコツェリア協会（一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会）

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸ビル10階

Email: concierge@ecozeria.jp

制作：株式会社ビオビオ

エコツェリア協会

丸の内地球環境倶楽部

丸の内地球環境新聞

<http://ecozeria.jp/>

<http://www.ecozeria.jp/earth/>

<http://www.ecozeria.jp/shimbun/>